

令和5年度教育課程について（届） 解説編

校長 小瀬 和彦

このことについて、昭島市立学校の管理運営に関する規則に基づき、下記のとおりお届けします。

記

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

社会や世界の状況を幅広く視野に入れ※1、よりよい学校教育を通して持続可能な社会※2を創るという理念の基、知・情・意・体の調和のとれた人間性豊かな児童※3の育成を目指す。

※1 社会や世界の状況＝Society5.0時代：人工知能（AI）、ビッグデータ、Internet of Things、ロボティクス等の先端技術が行動化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた時代が到来しつつあり、社会の在り方そのものがこれまでとは「非連続」と言えるほど劇的に変わる状況が生じつつある。

※1 地球規模の諸課題＝飢餓・格差・感染症（新型コロナウイルス）の拡大・自然環境や資源の有限性・紛争

※2 持続可能な社会＝「持続可能な開発」：「将来世代のニーズを満たす能力を損なうことなく、現在のニーズを満たすような開発」

※3①	◎ よく考える子	自ら学び考え判断し、協働して問題解決を図る子〈知〉
	○ 心ゆたかな子	自らのよさを見つめ、他者を尊重し、共によりよく生きようとする子〈情〉
	○ 元気な子	自らすすんで挑戦し、最後までやり遂げる子〈意〉
		自らすすんで心と体をきたえ、たくましく生きる子〈体〉

※3②「自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協調して問題解決を図り、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となる人間の育成」

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

昭島市教育振興基本計画※4に基づき、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、教育目標の実現を図り、児童に生きる力を育む。

※4 東京都教育ビジョン（第3次）を受けて、5点の柱から展開されている。①確かな学力の定着、②豊かな心の育成、③健やかな体、④輝く未来に向かって、⑤生涯学習の推進、以上5点から施策が展開されている。

ア 「よく考える子」を育て、確かな学力の定着と伸長を実現するために

(ア) 各種調査の結果分析※☆に基づくカリキュラム・マネジメント※5の充実を図ることにより、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、思考力・判断力・表現力等を育み主体的に学習に取り組む態度※6を養う。

※☆ 全国学力・学習状況調査（4月）をプレテストとして実施し、授業改善のポイントを9月までに明らかにし、全国学力・学習状況調査（12月）をポストテストとして実施し、検証を図っている。

※5 カリキュラム・マネジメント

- ① 児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科横断的な視点で組み立てていくこと。
- ② 教育課程の実施状況を評価して、指導内容・方法の改善を図っていくこと。
- ③ 教育課程の実施に必要な人的・物的な資源を確保するとともに組織体制の改善を図っていくこと。

※6 主体的に学習に取り組む態度＝①知識及び技能を獲得したり思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面、②「①」の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面（セルフモニタリング・セルフトレーニング）⇒当事者意識をもち、自ら進んで学習しようとする主体的な学習態度を育成する。

(イ) 問題解決的な学習※7や体験的な活動、多様な人々との協働を促す活動を充実させることにより、協働的問題解決能力を育成する。

※7 問題解決的な学習は、次のような学習過程に特徴がある。

問題の把握 ⇒ 仮説の設定 ⇒ 追究1（自力解決） ⇒ 追究2（協働解決・学び合い） ⇒ まとめ・問題の解決・表現 ⇒ 振り返り ⇒ 新たな問題

(ロ) 各教科等における各学年相互間の関連を図り、教科横断的な視点※8から指導計画の編成・実施・評価・改善を図ることにより、系統的に読み解く力※9や論理的思考力、情報活用能力を育成する。

第1表

- ※8 教科等を超えて、国語でも算数でも…体育でも、全ての教科等で、育成していく共通な資質・能力。
本校では、3年前から、論理的思考力・情報活用能力・読み解く力の育成、主権者教育を展開している。
- ※9 ①目的に応じて、連続テキスト(文章)や非連続テキスト(図表、グラフ、写真等)から、必要な情報を正確に取り出す。②取り出した情報を、比較・関連付けて読み取る。③読み取った内容の意図や背景、理由を考えて、理解・解釈・推論して読み解く。

イ 「心ゆたかな子」を育て、広く世界に関わり、共生社会を具現化しようとする態度を養うために

- (ア) 道徳教育や体験活動、多様な表現や鑑賞の活動等を通して、創造性を涵養し、道徳性※10を養う。
※10「道徳性を養う」とは：道徳的諸価値についての理解(価値理解・人間理解・他者理解)を基に自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、養うこと。
- (イ) 集団宿泊活動やボランティア活動、体験的な活動を通して、自分のよさを認識し、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、共によりよく生きようとする態度を養う。

ウ 「元気な子」を育て、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するために

- (ア) 各種調査等の分析結果に基づくカリキュラム・マネジメントの充実を図ることにより、体力向上と健康の保持増進を図り、児童が自らすすんで課題を把握し、解決しようとする資質・能力※11を育成する。
※11 コロナ禍において、運動や健康についての自らの課題を把握し、進んで課題解決しようとする(自立・自律)資質・能力を育成する。
- (イ) 食育の推進並びに安全に関する指導について、地域の関連機関・団体との連携・協働を図り、適切な実施を通して、生涯を通じて健康・安全で活力ある生活をおくるための基礎を培う。

エ 輝く未来に向かう力を身に付けるために

- (ア) 昭島市民科(生活科・総合的な学習の時間)において、各教科及びSDGs※12との関連(クロスカリキュラム)を明確にした※13カリキュラム・マネジメントにより、主権者教育を中核に探究的な見方や考え方を働かせ、社会参画しようとする態度を養い、グローバルに考え、ローカルに行動できる人材を育成する。
※12 SDGs 2015年9月25日 国連で「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」採択。
SDGs = 「持続可能な開発目標」17のゴール、169のターゲット、232の指標「ローカル且つグローバルな課題」

人間(People)	1 貧困	2 飢饉・食料	3 健康・福祉	4 教育	5 ジェンダー	6 水・衛生
繁栄(Prosperity)	7 持続可能性・エネルギー・アクセス	8 産業・労働	9 インフラ・イノベーション	10 不平等	11 都市・居住空間の改善と災害対策	
地球(Planet)	12 生産と消費	13 気候変動	14 海の生物多様性・海洋資源の保全と利用	15 陸の生物多様性		
平和(Peace)	16 司法へのアクセス	17 グローバル・パートナーシップ				

SDQGsのゴール・ターゲット・指標と昭島市民科の課題を結び付ける!

- ※13 クロスカリキュラムとは：特定のテーマに関係するいくつかの教科・領域を相互に関連付けて学習するカリキュラムである。
- (イ) 昭島市特別支援教育推進計画に基づき、通級による指導との連携・校内委員会による情報共有と研修を強化し、個に応じた指導の充実を図るため、「指導の個別化」と「学習の個性化」※14を推進する。
※14 「指導の個別化」：一定の目標をすべての児童生徒が達成することを目指し、個々の児童生徒に応じて異なる方法で学習を進めること。「学習の個性化」：個々の児童生徒の興味・関心等に応じた異なる目標に向けて、学習を深め広げること。
- (ウ) 就学支援シートの積極的活用、スタートカリキュラム※15の実施、幼保・小中連携教育を計画的に推進し、現実社会を見据えつつ、学びと自己のキャリア形成の方向性との関連付けられるようにする。
※15 スタートカリキュラム：幼児期の遊びを通じた総合的な指導を生かす教育課程を工夫し、新1年生が「主体的に自己を発揮しながら学びに向かう」ことが可能となるようにすること。

オ 信頼される学校づくりのために

- (ア) 学校経営ブランドデザイン及び教育課程、教員のマニフェスト(指導の重点)を公表(学校公開、ホームページ、説明会)し、説明責任を果たすとともに各種調査の分析結果及び改善点を公表し、結果責任を果たす。
- (イ) 組織的に、いじめ、不登校、事故の未然防止及び解消に努め、安全で安心な学校づくりを実現する。
- (ウ) 「学校の新しい生活様式」※16に則り、感染症対策や大規模災害発生時の対応等、あらゆる事態を想定した防災教育等を徹底し、安全教育の充実を図る。
※16 学校の新しい生活様式 (1)基本的感染対策：①身体的距離の確保、②マスク着用、③手洗い、④不要不急の外出・移動はしない (2)基本的生活様式：①検温健康チェック、②3密の回避、③手洗い・消毒・咳エチケット、④適切な運動・食事、基本的生活習慣の確立、(3)日常生活様式：食事・買い物・公共交通機関、スポーツ等での様式(略)